

裏面白紙

宗  
丙  
九  
二月廿三日

官報報告

立宗 大正二年二月廿三日  
決裁 大正 年 月 日

宗秩察總裁  
久藤

宗秩察主事

宗秩察

宗秩察

宗秩察

記入済

大臣  
河村

次官  
河村

正六位瓜生寅時旨叙位ノ件

二月廿三日  
完  
九月廿三日  
九年保  
回覽  
二年二月廿三日

八

大正二年二月廿三日  
臺帳記入二月廿三日官報報告

宮内省

(元)



正六位 瓜生 寅

特旨ヲ以テ位一級被進 瓜生 寅

叙從五位

右 謹テ奏ス

大正二年二月二十三日

内閣

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

大正二年二月 日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

正六位瓜生寅ハ明治三年四月大學入助教出身  
以來大改理學校長文部少教授文部七等出仕  
文部六等出仕等、任セラレ此間學制改革ノ議  
ヲ建テ又ハ學制教則新設ノ事、從フ明治五年  
八月九日大藏省五等出仕、補セラレ印紙ヲ新設シ  
又神戶大改兩稅關ヲ新設ス十二月十三日租稅助、

内閣

任セラル其後明治七年鐵道助、任セラレ山崎以  
北越前敦賀、至ハ鐵道新設、從事ス明治十年  
一月鐵道寮ヲ廢セラレ廢官トナリタル者、候處  
目下病氣危篤ノ趣、付此際旧功ヲ録セラレ位一  
級ヲ進メラレ從五位、叙セラレ可然ト認ム

履 歷 書

豊多摩郡淡橋町字角筈八百七拾陸番地

士族

瓜 生 寅

天保十三年一月生

一明治三年庚午三月徵サレ四月五日大學大助教  
ニ任シ八日從七位ニ叙セララル十二月十五日大  
學少博士ニ任シ正七位ニ叙セララル

同年十月廿二日東京府へ管轄ヲ移ス

一明治四年辛未正月七日大阪理學校長ヲ命セラ  
ル七月十三日帰東京ヲ命セララル廿七日文部少  
教授ニ任セラレ編輯局ニ入り著述ニ従事ス此

間學制改革ノ議ヲ建ツ九月廿三日本官ヲ免シ  
廿四日改テ文部少教授ニ任シ大學南校教場掛  
ヲ命セララル是ヨリ教育ノ革新ニ従事ス十一月  
十四日兼南校事務掛ヲ命セララル十二月九日本  
官ヲ免シ文部省七等出仕ニ補セララル南校ト本  
省ヲ兼務ス以來學制教則新設ニ従事ス

一明治五年壬申正月五日東南洋學一二校御雇外  
國教師へ新年祝酒被賜ニ付接伴掛命セララル十  
一日舞樂ニ御招ニ付接伴掛命セララル二月十日  
文部六等出仕ニ補セララル同日本省事務專務ヲ  
命セララル學制既ニ發布教則已ニ成ル故アリ文  
部ヲ辭ス八月九日大藏省五等出仕ニ補セララル

印紙ヲ新設ス九月廿八日横濱出張ヲ命セラル  
十月十二日特ニ任撲ニ由リ神戸在勤大阪運上  
所兼務ヲ命セラル始テ兩税關ヲ新設ス十一月  
十三日租税助ニ任セラル

一明治六年癸酉二月十五日正六位ニ叙セラル

一明治七年甲戌一月廿八日帰京二月廿八日大藏  
省五等出仕ニ補セラル後之ヲ辭ス六月三日鐵  
道助ニ任セラル四日大阪在勤ノ命アリ八月三  
十日西京在勤命セラル山崎以北越前敦賀ニ至  
ル鐵道新設ニ從事ス

一明治八年病アリ帰休ヲ乞フ三月廿三日帰京命  
セラレ四月十五日新橋運輸局誥命セラル

一明治十年一月鐵道寮廢セララル

右之通

裏面あり

丙 受付大正二年二月廿三日  
第九〇號

立案 大正二年二月廿三日  
決裁 大正二年二月廿三日

宗秩寮總裁  
池田

掌書書記官



案

正六位 瓜生 寅

特旨ヲ以テ位一級被進

正六位 瓜生 寅

叙從五位

内省

右之通本日宣下相成候條此旨及傳達候  
位記茲辭令ハ明日可及回送候也

大正二年二月二十三日

宗秩寮總裁

從五位 瓜生 寅

(元)

大正二年二月廿日發送





大正十二年二月三日

大正十二年二月三日

大正十二年二月三日

大正十二年二月三日

浅野 敬  
新川 辰雄

浅野

敬

新川

辰雄

大正

十二年

二月

三日

浅野

敬

浅野 敬  
新川 辰雄  
大正十二年二月三日

浅野 敬  
新川 辰雄

浅野 敬  
新川 辰雄

大正

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正

大正

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正  
三十五年  
三月二十五日

大正  
三十五年  
三月二十五日

(元)



天正二年二月廿四日

丙

九日ノ二日

別紙位記並辭令及廻送候也

大正二年二月廿四日

宗秩寮總裁侯爵久我通久

從五位瓜生宣

宮内省

(五四)

裏面白紙

84